

ナシ黒星病の秋型病斑が多く発生しています！

翌年の発生を抑えるため、秋季防除や落葉処理を徹底しましょう！

[現在の状況]

- ① 10月中旬現在, 黒星病(秋型病斑(写真))の発病度及び発生地点率は平年より高い(表1)。
- ② 例年, 黒星病の発病葉率は6月以降減少するが, 本年9月の発病葉率は8月よりも増加し, 平年より高くなった(過去11年中1位)(図)。

表1 ナシ黒星病(秋型病斑)の発病度と発生地点率

地域(地点数)	発病度*			発生地点率(%)		
	H26年	H24年(多発年)	平年	H26年	H24年(多発年)	平年
全県(18)	2.0	1.6	1.0	89	94	64
県北(3)	2.2	0.3	1.4	67	75	53
県南(6)	1.9	0.9	1.2	83	100	66
県西(9)	2.0	2.5	0.8	100	100	68

※圃場当たり 300 葉について発病の有無を調査し, 葉裏面の病斑面積率から算出した値

$$\text{発病度} = ((2A+B) / 2 \times 300) \times 100$$

A : 病斑の占める割合が葉の 1/2 以上である葉数。 B : 病斑の占める割合が葉の 1/2 未満である葉数。

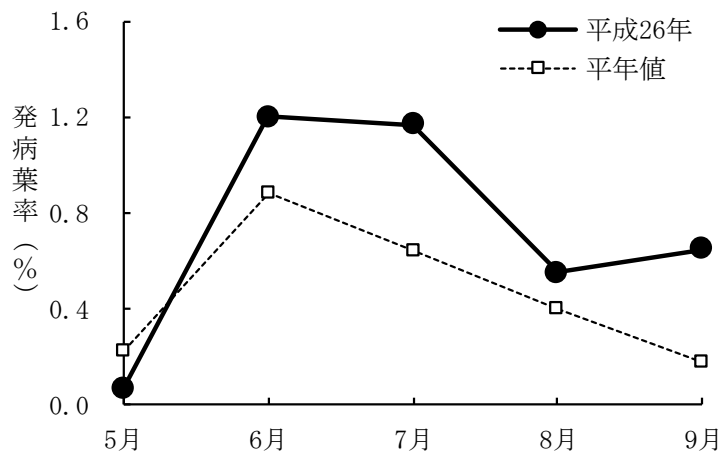


図 ナシ黒星病の発病葉率の推移

[防除対策]

- ① 黒星病の秋型病斑上に形成された分生子が、10～11月の降雨により枝を流下し鱗片に感染すると、翌年の芽基部病斑となる。そのため、表2及び平成26年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に2回程度の秋季防除を行う。特に、本年黒星病が多発生した園では複数回防除を行う。
- ② 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に、徒長枝の先端までかかるよう丁寧に散布する。圃場の周縁部等、葉液のかかりにくい部分には、手散布等により補正散布を行う。
- ③ 発病した葉は翌年の一次伝染源となるため、落ち葉は集めて土中深く埋めるかロータリー耕によりすき込む等、落葉処理を徹底する。

表2 ナシ黒星病に登録のある主な薬剤（平成26年10月22日現在）

薬剤名	希釈倍数	本剤の使用回数	有効成分	有効成分の総使用回数
オキシラン水和剤	500～600倍	9回	キャプタン	9回
			有機銅	12回 ¹⁾
キノンドーフロアブル	1000倍	9回	有機銅	12回 ¹⁾
オーソサイド水和剤80	600～1000倍	9回	キャプタン	9回
チオノックフロアブル	500倍	5回	チウラム	5回 ²⁾
トレノックスフロアブル				
デランフロアブル	1000倍	4回	ジチアノン	5回

1)12回以内(但し、塗布は3回以内、散布は9回以内)

2)5回以内(但し、休眠期は1回以内)

(注)・農薬散布の際には、必ず農薬ラベルを確認してください。

・ナシの場合、農薬の使用回数は本年の収穫後から翌年の収穫前までをカウントするため、注意してください。



写真 葉裏に発生したナシ黒星病の秋型病斑